

この本紹介 瀬川明久 編著 「河川堤防の漏水対策技術」

このたび、北海道技術士センター会員で、防災研究会水工系部会長をされている瀬川明久技術士が、ご自身の経験と長年にわたる資料の収集分析結果に基づいて、「河川堤防の漏水対策技術」をまとめられました。

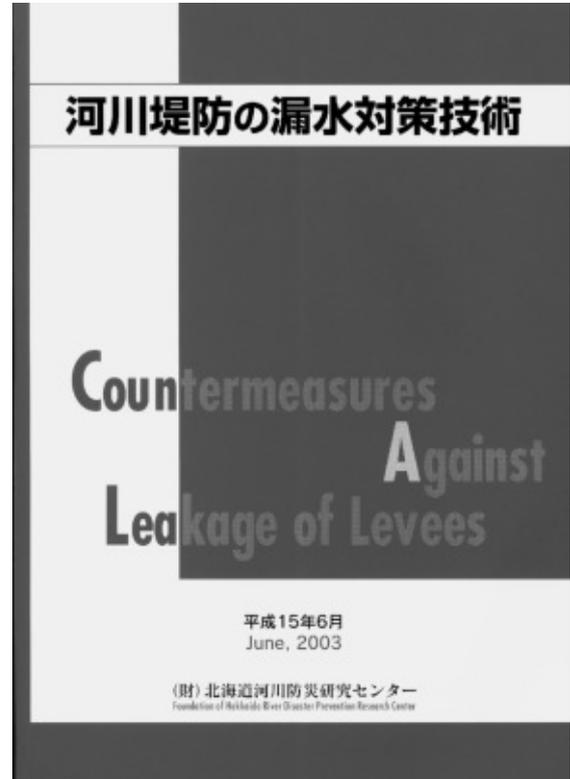
我が国最大・最長の防災構造物であります河川堤防を介する災害は、近年の異常気象の影響もあって依然として多発しており社会経済活動に多大な障害を与えている現状にあります。

また、堤防災害の形態も地盤沈下、洪水越流、あるいは地震等に対する力学的安定性から、近年は堤防漏水や樋門周辺漏水等に対する質的安定性がクローズアップされ、地域社会とともにある堤防の安全性向上対策と説明責任が重要な課題になってきました。(本書謹呈案内抜粋(財)北海道河川防災研究センター理事長 北条紘次)

このような背景を受け、本書は筆者が北海道開発局で実施した調査研究、技術開発及び他機関の調査研究資料等を参考にとりまとめたもので、河川堤防の漏水対策技術に関する調査から、解析、設計、施工、維持管理にわたる一連の応用技術、新技術開発及びリスクマネジメントをとりまとめ、実務に携わる技術者向けに作成された技術書であります。

本書には、堤防災害の実態、堤防漏水のメカニズム、漏水調査法、漏水危険度評価法、数値解析法、対策工の設計と施工法、安全管理総合技術などが章毎にまとめられ、基本的な考え方と事例分析をとおして解説してあります。

また、災害実態とメカニズムの分析結果から、各種の技術基準の考え方や規定を補強、あるいは改善している事例を加え、技術発展と安全度向上を特に意識した記述となっています。



これらにより、河川、堤防、地形、地質、構造物等の現場条件と、降雨、流出、浸透、地震等の外力条件との関連および漏水対策の取り扱い方法を示したもので、今後の漏水対策技術書として、広く活用されることが期待されています。

なお、本書は今年6月の刊行以来好評を博しており、残部数も少なくなっていることから、入手希望の方は下記まで連絡下さい。

(財)北海道河川防災研究センター

瀬川 明久

(文責：渡辺 敏也)